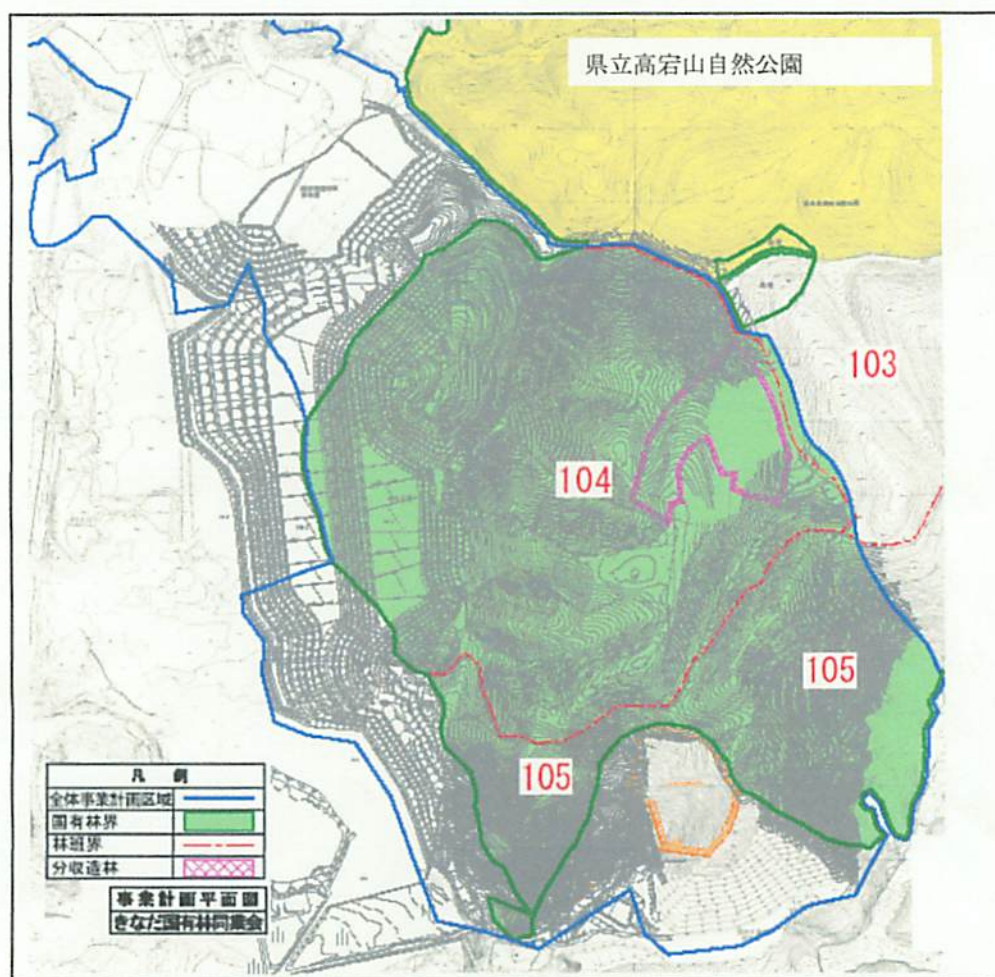


国有林104・105林班 開発計画（案）について



- ・104・105林班の山砂・砂利の賦存量：合計 128,414,325 m³
(有)大貫測量設計事務所「土量計算書」より)
- ・表土部分の製品として利用できない分が15%含まれていると想定する。
- ・採取量のうち、目が細かく製品として利用できないシルト分が10%含まれていると想定する。

$$\Rightarrow \text{想定採取量} \quad 128,414,325 \text{ m}^3 \times 85\% \times 90\% = \underline{98,236,959 \text{ m}^3}$$

(略)

国有林104・105林班は、市宿砂層西部の、国定公園や県立自然公園の指定区域外に位置している。2つの林班をあわせると1億m³強の山砂採取が可能で、この事業が認可されれば今後50年近く事業が継続できると予想されている。また、両林班の西側近くのところまで、既に複数の地元事業者による事業が行われており、今後の事業が効率的に展開できる地域だといえる。

(ちばぎん総合研究所調査報告書より抜粋)